平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	21520	市民海外派遣事業費	担当課	海外戦略室	内線
	番枝				2416

予算			総合計画		
会計	1	一般会計	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
款	2	総務費	分野	5	地域
項	1	総務管理費	基本施策	1	地域に住み続けたいという思いを育てる
目	15	海外戦略推進費	施策	4	ふれあいの推進

根拠計画	高山市海外戦略ビジョン
実施計画事業	市民海外派遣事業
市長公約	

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	中学生以上の市民	対象者数	75 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・市民の国際理解の啓発を図り、幅広い知識をもった国際社会に対応できる人材を育成する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・飛騨高山国際協会が実施する英語スピーチコンテストと市教育委員会が実施する公募試験により派遣市民を選抜し、派遣先の言語や文化について学習会を実施した後、約1週間の期間で海外へ派遣する。派遣先のアメリカ、オーストラリア、韓国ではホームステイ等を通じて異文化や外国の生活習慣を学びながら交流を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面

H24の実績	・平成24年8月9日～8月15日 アメリカコース(デンバー) 24名 ・平成24年8月9日～8月15日 オーストラリアコース(ケアンズ) 23名 ・平成24年8月15日～8月21日 中国コース(麗江・成都) 24名

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	派遣事業参加者数	人	目標値	75	75	75
			実績値	63	71	－
	算出根拠等		達成率(%)	84	95	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

・事前研修及び事後報告会の充実を図るなど派遣事業の強化に取り組んでいる。

コスト面

事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出 (千円)		(A)	14,395	14,486	16,000
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)				
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
	一般財源		14,395	14,486	16,000
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A／B)	228,492	204,028	213,333
	受益者 派遣事業参加者	(B)	63	71	75

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・派遣の前段として実施される英語スピーチコンテストや公募選考においても参加者がほぼ一定の人数で推移しておりある程度のニーズがある。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・事業の主催は市(教育委員会共催)であるが、事業代行を飛騨高山国際協会が行っており、現在の体制が妥当であると考える。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・一定人数の参加が得られ概ね成果が上がっている。 ・派遣先や内容の検討も十分に行っている。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・経費については、渡航費の補助などであり、適正な予算執行となっている。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・高山市海外戦略ビジョンの実現に向け、海外との人や文化の交流促進に寄与している。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 ／ 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・幅広い知識をもった国際社会に対応できる人材を育成するため、研修の内容の充実を更に図っていくともに、事業の効果検証の方法を検討する必要がある。
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	・将来の高山市を担う人材の育成という視点からの効果測定を行い、より効果的な取り組みを検討していく必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	事業の効果検証の方法を検討する。

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・高校生、一般についてスピーチコンテストとも併せ、広く参加を呼び掛ける。 ・学校教育課とも連携を強化し、学習会のさらなる充実を図る。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・将来の高山市を担う人材の育成という視点からの効果測定を行い、より効果的な取り組みを検討していく必要がある。				

平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	21523	自治体職員協力交流事業費	担当課	海外戦略室	内線
	番枝				2416

予算			総合計画		
会計	1	一般会計	政策		
款	2	総務費	分野		
項	1	総務管理費	基本施策		
目	15	海外戦略推進費	施策		

根拠計画	
実施計画事業	
市長公約	

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	対象者数	92,097 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・友好都市である中国雲南省麗江市より研修生を受け入れ、高山市の行政等について研修を行うことにより、両市の友好交流の推進と高山市の国際化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・中国雲南省麗江市研修生の受入れ		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面

H24の実績	・中国雲南省麗江市より研修生2名を受入れ ・海外戦略室及び観光課、学校教育課において研修

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	協力交流研修員受入数	人	目標値	2	2	2
			実績値	1	2	−
	算出根拠等		達成率(%)	50	100	−
			目標値			
			実績値			−
	算出根拠等		達成率(%)			−
			目標値			
			実績値			−
	算出根拠等		達成率(%)			−
			目標値			
			実績値			−
	算出根拠等		達成率(%)			−
			目標値			
			実績値			−
	算出根拠等		達成率(%)			−
			目標値			
			実績値			−
	算出根拠等		達成率(%)			−

補足事項

コスト面

事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出 (千円)		(A)	2,771	5,260	6,145
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)				
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
	一般財源		2,771	5,260	6,145
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	30	57	67
	受益者 市民(4月1日現在)	(B)	93,312	92,861	92,097

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・国際化社会の進展に伴い、市民の姉妹・友好都市を含めた海外への関心が高まっており、ある程度のニーズがある。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・自治体が受入れを行う事業であり市の実施が妥当である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・概ね計画どおりの研修者を確保し目標を達成している。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・経費については、家賃、渡航費、研修手当などであり、適正な予算執行となっている。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・高山市海外戦略ビジョンの実現に向け、海外との人や文化の交流促進に寄与している。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・研修内容の充実を図るとともに、市民との交流の機会を創出していく。
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	・研修生の活動が見えるよう情報発信を行う必要がある。 ・人数拡大の検討については、研修生を市が費用負担して受け入れていることから、市民等に対する具体的な効果について明確にする必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	市民とのより一層の交流の機会を創出していく。

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	高山市の国際化促進の観点から、他の友好都市等からの受入れも検討していく。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・研修生の活動が見えるよう情報発信を行う必要がある。 ・他の友好都市からの受け入れの検討については、研修生を市が費用負担して受け入れていることから、市民等に対する具体的な効果について明確にする必要がある。				

平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	21524	姉妹友好都市交流促進事業費	担当課	海外戦略室	内線
	番枝				2416

予算			総合計画		
会計	1	一般会計	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
款	2	総務費	分野	5	地域
項	1	総務管理費	基本施策	1	地域に住み続けたいという思いを育てる
目	15	海外戦略推進費	施策	4	ふれあいの推進

根拠計画	高山市海外戦略ビジョン
実施計画事業	国内外姉妹友好都市等交流事業
市長公約	積極的な観光振興対策を実施します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人をめざします。

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	対象者数	92,097 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・海外の姉妹友好都市であるアメリカ合衆国コロラド州デンバー市、中華人民共和国雲南省麗江市、ルーマニアシビウ市、ペルー共和国ウルバンバ郡(H25.8月提携予定)との友好交流を促進する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・姉妹都市・友好都市への派遣及び受入れ、交流		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面

H24の実績	・高山市・麗江市友好都市提携10周年記念事業(公式訪問・市民ツアーの実施、麗江市公式訪問団の来訪) ・昆明市と友好都市関係を樹立する意向書(4月21日署名) ・シビウ市(ルーマニア)と友好都市提携(9月4日締結) ・ウルバンバ郡と友好都市提携を締結することの確認書(10月9日署名)

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
成果指標	姉妹友好都市等関係者との交流人数	人	目標値			
			実績値	20	290	−
	算出根拠等		達成率(%)			−
			目標値			
			実績値			−
	算出根拠等		達成率(%)			−
			目標値			
			実績値			−
	算出根拠等		達成率(%)			−
			目標値			
			実績値			−
	算出根拠等		達成率(%)			−
			目標値			
			実績値			−
	算出根拠等		達成率(%)			−
			目標値			
			実績値			−
	算出根拠等		達成率(%)			−

補足事項

目標値について、姉妹友好都市交流促進事業費と国際交流事務費で実施する事業で、「市民の国際交流事業などへの年間参加人数5,000人(高山市海外戦略ビジョン)」を目標としているため、姉妹友好都市交流促進事業費単独での目標値は設定していない。

コスト面

事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出 (千円) (A)	625	5,728	7,350
財源内訳 受益者負担(使用料・負担金等)			
財源内訳 その他特定財源(国・県支出金・起債等)			
財源内訳 一般財源	625	5,728	7,350
コスト指標 受益者1件当たり(円) (A/B)	7	62	80
コスト指標 受益者 市民(4月1日現在) (B)	93,312	92,861	92,097

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

	評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・国際化社会の進展に伴い、市民の姉妹・友好都市を含めた海外への関心が高まっており、ある程度のニーズがある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・現在、市が主体となりながら高山・デンバー友好協会や高山・雲南・麗江友好協会などとも連携し交流事業をすすめている。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・様々な交流事業を実施しているが、幅広く対象を広げ交流人口を増加させることが課題である。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・経費は交流に必要な渡航費用等であり、適正な予算執行となっている。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・高山市海外戦略ビジョンの実現に向け、海外との人や文化の交流促進に寄与している。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・一定の関係者のみでなく幅広く市民を対象とした交流事業を展開していく必要がある。
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	・交流先の都市数が増えることから、交流促進事業全体を計画的に推進する必要がある。 ・一部の市民のみの一過性の交流とならないよう、市民意識の醸成や交流機会の創出に取り組む必要がある。 ・新たな観光・産業につながる交流を具体化させる必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	デンバー市より、デンバー空港と成田空港の直行便就航を記念して来高するモンテベロ高校ドラムライン一行と、市民の交流の機会を創出する。 シビウ市より、ダンスグループを招聘し、市民のシビウ市への理解促進を図る。

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	姉妹・友好都市について、市民がより一層理解が深められる施策を実施する。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・交流先の都市数が増えたことから、交流促進事業全体を計画的に推進する必要がある。 ・一部の市民のみの交流とならないよう、市民意識の醸成や交流機会の創出に取り組む必要がある。 ・都市の特性に応じた交流内容を検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	21525	国際交流事務費	担当課	海外戦略室	内線
	枝番				2416

予算			総合計画		
会計	1	一般会計	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
款	2	総務費	分野	5	地域
項	1	総務管理費	基本施策	1	地域に住み続けたいという思いを育てる
目	15	海外戦略推進費	施策	4	ふれあいの推進

根拠計画	高山市海外戦略ビジョン
実施計画事業	国際交流事務費
市長公約	積極的な観光振興対策を実施します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人をめざします。

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	対象者数	92,097
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・国際交流の促進及び民間交流団体の活動支援を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	・国際交流活動の支援		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面

H24の実績	・市民外国語講座の実施(5ヶ国語、受講者402名) ・英語スピーチコンテストの実施(参加者62名) ・韓国ウィークの開催

指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
成果指標 市民外国語講座受講者数	人	目標値	500	500	500
		実績値	411	402	−
算出根拠等		達成率(%)	82	80	−
成果指標 市民の国際交流事業などへの年間参加人数	人	目標値		5,000	5,000
		実績値	1,000	3,200	−
算出根拠等		達成率(%)		64	−
		目標値			
		実績値			−
算出根拠等		達成率(%)			−
		目標値			
		実績値			−
算出根拠等		達成率(%)			−
		目標値			
		実績値			−
算出根拠等		達成率(%)			−
		目標値			
		実績値			−
算出根拠等		達成率(%)			−

補足事項

目標値について、姉妹友好都市交流促進事業費と国際交流事務費で実施する事業で、「市民の国際交流事業などへの年間参加人数5,000人(高山市海外戦略ビジョン)」を目標としている。姉妹都市関連290人、外国語講座402人、スピーチコンテスト62人、韓国ウィーク1,600人等

コスト面

事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出 (千円) (A)	1,802	6,299	1,546
財源内訳 受益者負担(使用料・負担金等)			
財源内訳 その他特定財源(国・県支出金・起債等)			
財源内訳 一般財源	1,802	6,299	1,546
コスト指標 受益者1件当たり(円) (A/B)	19	68	17
コスト指標 受益者 市民(4月1日現在) (B)	93,312	92,861	92,097

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・国際化社会の進展に伴い、海外の文化等への関心が高まっており、ある程度のニーズがある。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・現在、市と飛騨高山国際協会などが連携し事業をすすめている。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・様々な事業を実施しているが内容の充実や幅広く対象を広げ交流事業への参加者数を増加させることが課題である。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・経費は、旅費や外国語講座の実施等に要する費用等であり、適正な予算執行となっている。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・高山市海外戦略ビジョンの実現に向け、海外との人や文化の交流促進に寄与している。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・事業内容の充実を図るとともに、一定の関係者のみでなく幅広く市民を対象とした事業を展開していく必要がある。
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	・飛騨高山国際協会の事務負担について見直す必要がある。また、新たに創設される日中友好協会においても同様の対応をとる必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・既存事業を継続しつつ内容の充実を図っていく。

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・関係都市とのさらなる交流の促進 ・飛騨高山国際協会実施事業の充実				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・飛騨高山国際協会の事務負担について見直す必要がある。				

平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	21526	海外戦略推進事務費	担当課	海外戦略室	内線
	番枝				2416

予算			総合計画			
会計	1	一般会計	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして
款	2	総務費	分野	6	工業
項	1	総務管理費	基本施策	1	時代の流れに対応した活力ある工業の振興を図る
目	15	海外戦略推進費	施策	1	経営体質の強化

根拠計画		
実施計画事業		海外戦略推進事業
市長公約	1	積極的な観光振興対策を実施します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人をめざします。

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	対象者数	92,097 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	外国人観光客が訪れやすい体制を構築して誘客を促進するとともに、市特産品の海外販路を拡大し、市民がその利益を享受する。		
概要	事業の実施手法(手段)	情報発信:海外旅行博への出展、海外旅行代理店ファムを実施し、市の情報を積極的に発信する。 環境整備:外国人向けパンフレットの整備、市内事業者によるおもてなし体制の強化を図る。 販路拡大:海外在住輸入業者との関係構築に努め、地場産品の輸出を促進する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面

H24の実績	・国内外関係機関戦略派遣職員による誘客・販促活動 ・海外旅行博出展(パリMAP、アクリマタシオン公園における日本PR【フランス】、ハナツアー旅行博【韓国】、台北国際旅行博【台湾】) ・海外誘客プロモーション活動(フランス、オーストラリア、タイ、アメリカ、中国等) ・海外旅行代理店取材等対応 47件 279名

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
成果指標	外国人観光客入込数	人	目標値	300,000	300,000	300,000
			実績値	95,000	151,000	−
	算出根拠等		達成率(%)	32	50	−
活動指標	トップセールス等海外プロモーション	件	目標値	8	10	10
			実績値	8	13	−
	算出根拠等		達成率(%)	100	130	−
活動指標	海外旅行代理店取材等対応	人	目標値			
			実績値		279	−
	算出根拠等		達成率(%)			−
成果指標	新規海外販売契約件数	件	目標値		7	13
			実績値		4	−
	算出根拠等		達成率(%)		57	−
			目標値			
			実績値			−
	算出根拠等		達成率(%)			−
			目標値			
			実績値			−
	算出根拠等		達成率(%)			−

補足事項

コスト面

事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出 (千円)		(A)	34,218	41,142	34,110
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)				
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
	一般財源		34,218	41,142	34,110
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	367	443	370
	受益者	市民(4月1日現在) (B)	93,312	92,861	92,097

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・地域活力の向上のため、海外観光客の誘客促進、地場産品の販路拡大が必要となっている。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・戦略派遣職員を中心とした市職員が各種関係機関と連携し、市内事業者が海外展開できる環境を整備する。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・海外誘客、地場産品の海外販売においては、少しづつではあるが確実に成果が上がっている。(外国人観光客数の増加、地場産品海外販売実績)
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・戦略派遣職員の活用、県や各種協議会との連携、外国語観光ガイドの多面的な活用により、効率的に事業を実施している。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・高山市海外戦略ビジョンの実現に向け、誘客・販売・交流の一体的な推進に寄与している。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	活動を行ってはいるが、目標としての成果を得ることができていない。
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	・海外戦略ビジョンに掲げる目標達成に向けた戦略を着実に実施できるよう、関係機関等との連携を強化していく必要がある。 ・観光・物販・交流において相乗効果が図られるようニーズにあった手法を検討していく必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	現状に関する情報をしっかりと収集・分析し、何をしなければならないか戦略を立てて事業を実施する必要がある。

次年度の実施方針(担当課評価)										
	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H25完了予定
	現状規模での活動を維持するとともに、現状に関する情報をしっかりと収集・分析し、成果目標を達成するために最も効率的な手段を検討する。									

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)										
	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H25完了予定
	・海外戦略ビジョンに掲げる目標達成に向けた戦略を着実に実施できるよう、関係機関等との連携を強化していく必要がある。 ・観光・物販・交流において相乗効果が図られるようニーズにあった手法を検討していく必要がある。									

平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	21528	外国青年国際交流員招致事業費	担当課	海外戦略室	内線 2416
	番枝				

予算			総合計画		
会計	1	一般会計	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
款	2	総務費	分野	5	地域
項	1	総務管理費	基本施策	1	地域に住み続けたいという思いを育てる
目	15	海外戦略推進費	施策	4	ふれあいの推進

根拠計画	高山市海外戦略ビジョン
実施計画事業	国際交流事業
市長公約	・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人をめざします。

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	対象者数	92,097 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・中国よりJETプログラムの外国青年を誘致し、国際化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・市民を対象とした中国語講座の講師 ・中国人来客訪問時の通訳		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面

H24の実績	・中国雲南省より国際交流員1名を受入れ ・中国語講座の実施や来客訪問時の通訳、講演依頼への対応

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	外国青年国際交流員招致数	人	目標値	1	1	1
			実績値	1	1	−
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	−
成果指標	中国語講座参加者数		目標値			
			実績値	71	62	−
	算出根拠等		達成率(%)			−
			目標値			
			実績値			−
	算出根拠等		達成率(%)			−
			目標値			
			実績値			−
	算出根拠等		達成率(%)			−
			目標値			
			実績値			−
	算出根拠等		達成率(%)			−
			目標値			
			実績値			−
	算出根拠等		達成率(%)			−

補足事項

コスト面

事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出 (千円)		(A)	944	926	1,298
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)				
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
	一般財源		944	926	1,298
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	10	10	14
	受益者 市民(4月1日現在)	(B)	93,312	92,861	92,097

3 分析・評価(Check) ※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・国際化社会の進展に伴い、市民の姉妹・友好都市を含めた海外への関心が高まっており、ある程度のニーズがある。
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・自治体が受入れを行う事業であり市の実施が妥当である。
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・国際交流員は概ね計画どおりの事業を実施しており目標を達成している。
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・経費については、家賃、渡航費、日当などであり、適正な予算執行となっている。
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・高山市海外戦略ビジョンの実現に向け、海外との人や文化の交流促進に寄与している。
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		7 / 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	今後、更に市民と接し交流を深めていく機会を増やすことが必要である。
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	現行の方法では、国際交流員と交流できる市民はごく少数に限られるため、交流範囲・人数を拡大する方法を検討する必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・更に市民と接し交流を深める機会を増やしていく。

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・更に市民と接し交流を深めていく機会を増やすことが必要である。				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	(担当課評価に同じ)				